

4. 保存の声と確認調査の継続

1) 講演会「新古今集」1988.2



当日のレジメ

1988. 2. 11 於新津市民会館

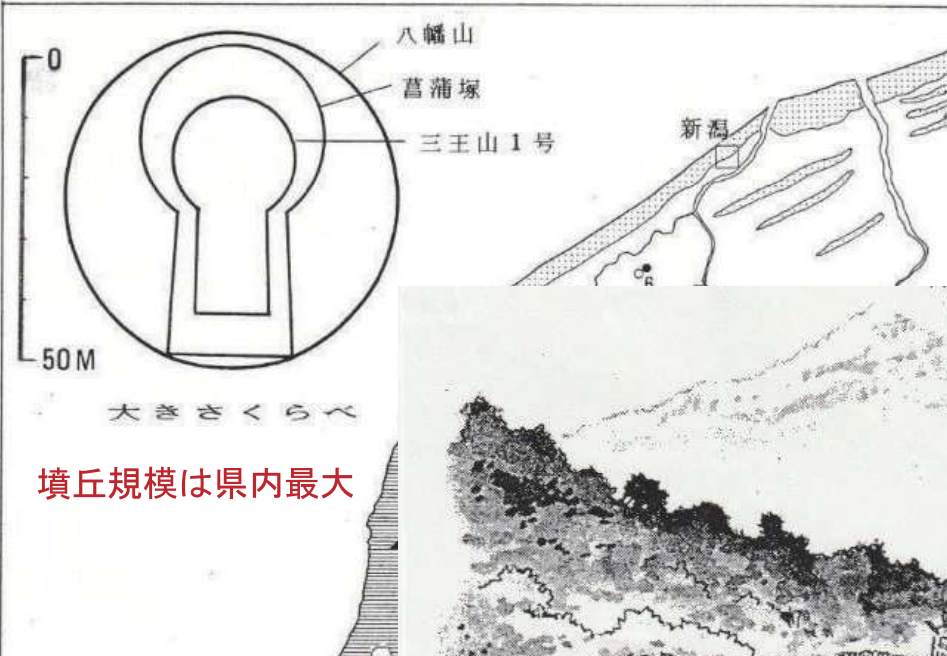
新津市古津・蒲ヶ沢遺跡群の調査

新潟県教育庁文化行政課
文化財専門員
坂井 秀 彦

- 1 調査の経過
- 2 埋蔵地遺跡・鳥撃場遺跡——縄文時代 約4000年前——
- 3 八幡山弥生遺跡——弥生時代 約1800年前——
“山の上のムラ”
- 4 八幡山(古墳)——古墳時代 約1500年前——
“大家族の墓”
- 5 製鉄遺跡群——奈良・平安時代 約1000年前——
“蒲原の製鉄基地”
- 6 まとめ

講演会「新津の古代に思いをはせて」
1988年2月11日 新津青年会議所主催
「新古今集」(新津の古代と今を考える集い)
・坂井は県の職務として調査成果を報告

坂井1988年2月講演資料



墳丘規模は県内最大



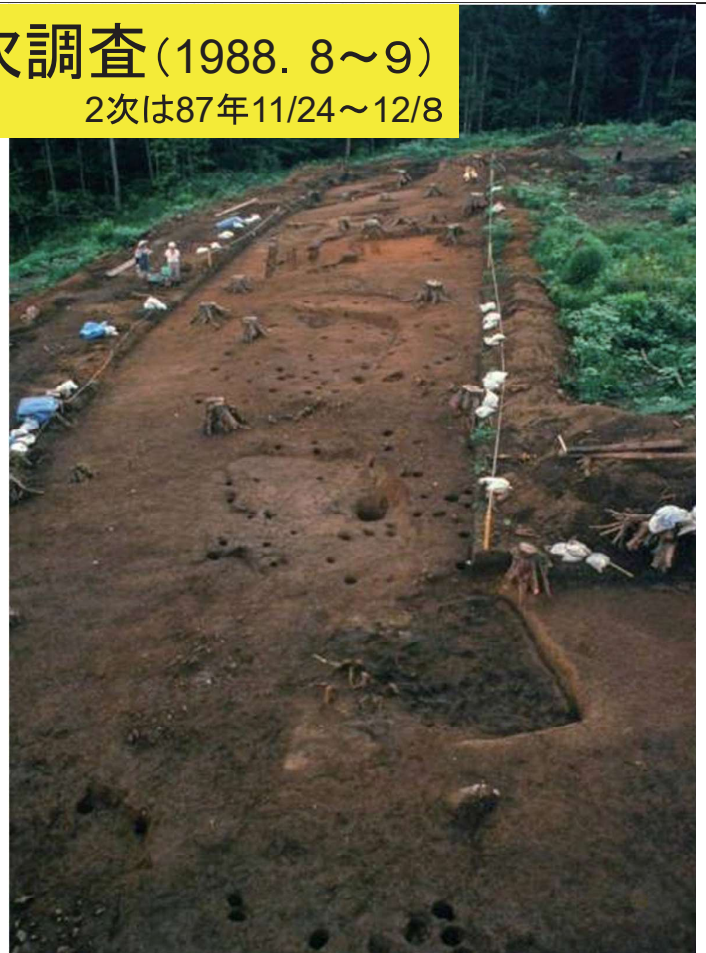
「文化遺産の世界」№38



学習まんがのイラストを引用 (小学館1984年『少年・少女人物日本の歴史』第2巻 卑弥呼 監修佐原眞)

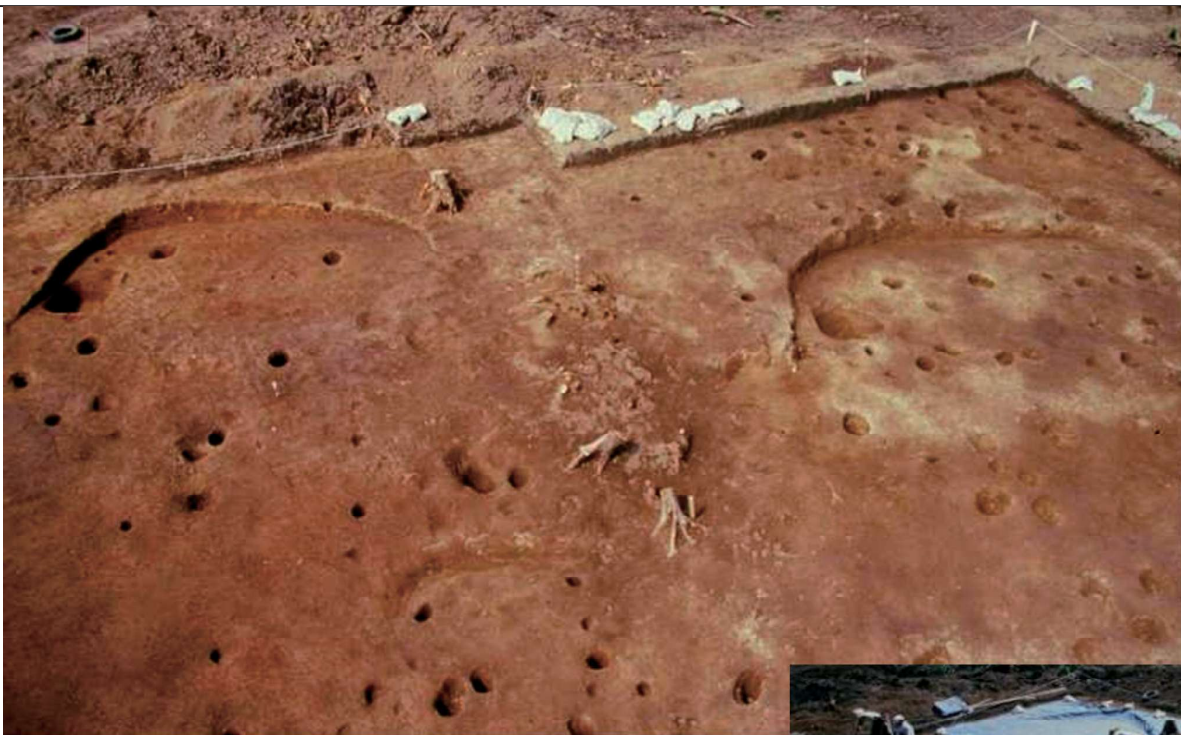
2) 第3次調査(1988. 8~9)

2次は87年11/24~12/8



第3次調査 北地区 (1988.6~9:川上貞雄氏担当)
幅広いトレンチを斜面に設定。竖穴住居多数、環濠を確認

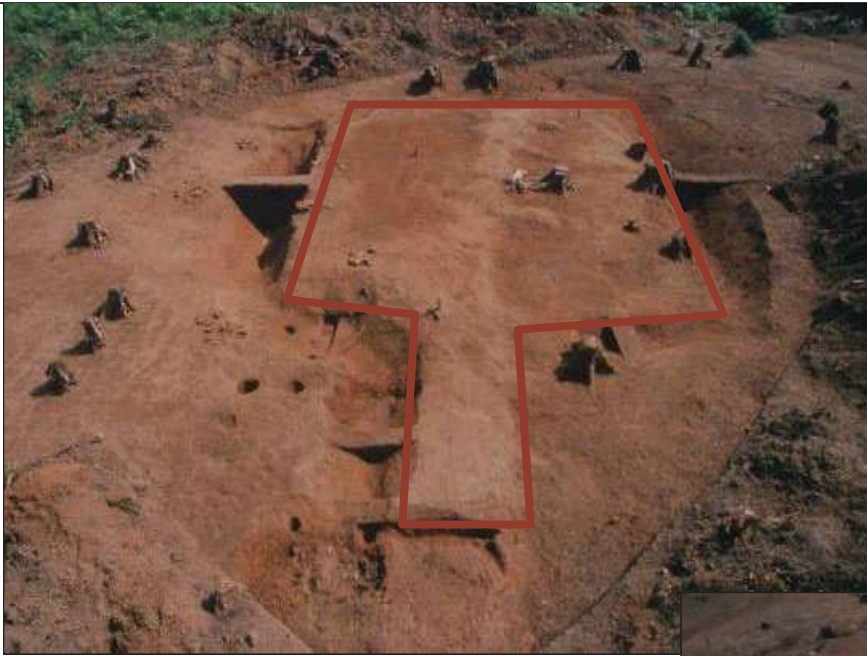
41



第3次調査 北地区
竖穴住居が次々と見つかる。
斜面下方は遺存していない。



42



【第3次調査の結果】

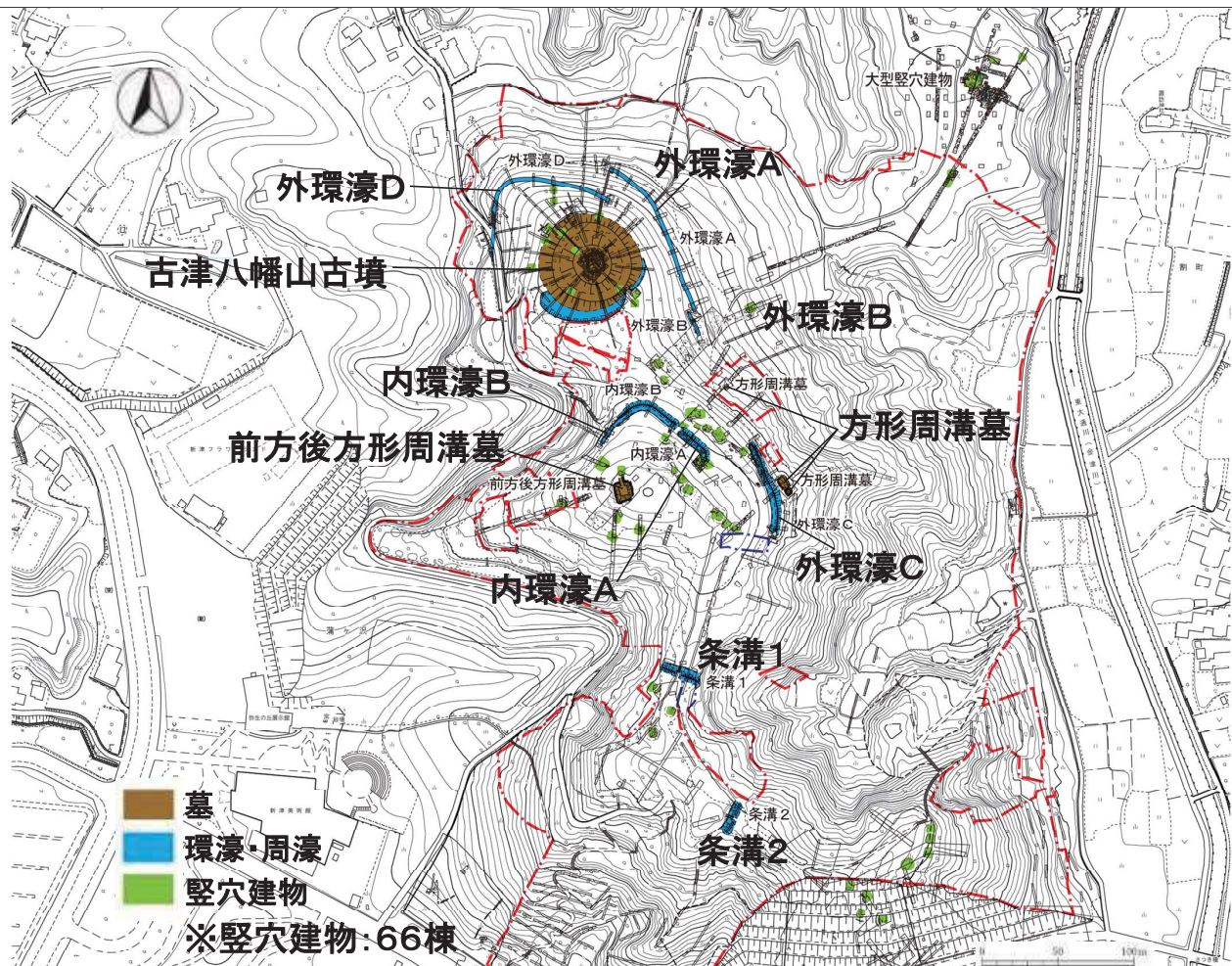
- ・発掘面積：約3300㎡
 - ・弥生時代竪穴住居16基
 - ・小型竪穴遺構/円形炉跡3
 - ・柱穴群
 - ・大型の環濠4か所(二重)
 - ・方形周溝墓あるいは古墳
- * 遺跡は大規模になり、竪穴住居・環濠などの遺構も多くて、内容も豊富になった。重要性は増した。

全長13m

第3次調査 北地区
丘陵頂上部で「前方後方形周溝墓」を確認。相対的に新しく、被葬者は有力者とみられる。



43



古津八幡山遺跡遺構平面図

44

保存要望など

➤ 講演会

- 1988/9/4: 佐原真氏(奈良国立文化財研究所) 新津青年会議所主催
- 10/24: 森浩一氏(同志社大学) 同志社大学校友会新潟支部主催

- **保存要望**: 新津市文化財調査審議会、日本考古学協会県内在住会員、日本考古学協会、新津郷土史研究会(署名8422名)、文化財保存全国協議会(署名1400名)など多数。
1988年～90年8月まで。

45

3) 第7次調査 (1990/7/23～8/10 県教委/坂井・新津市教委/渡辺)



南地区 全景(向こうは植物園予定地周辺)

弥彦山・角田山を望む

46



南地区 環濠(条溝2)



第7次調査 竪穴住居(斜面に造成されたものが多く、斜面下方は遺存しない)



植物園予定地周辺の土取り工事



製鉄関係遺構の確認(山林では可能性のある斜面を伐採し有無確認)

製鉄炉の調査



51



1990年8月8日文化庁河原純之主任調査官現地確認。遺跡保存とともに公園計画にも配慮しつつ、「東の吉野ヶ里」と評した。

52

さいごに一遺跡の意義

古津八幡山遺跡 遺構平面図



古津八幡山遺跡の動向

相田氏資料より

時代	北陸南西部編年	古墳集成編年	新潟シンポジウム編年	古津八幡山遺跡				
弥生時代中期	小松 専光寺 戸水B			環濠	竪穴建物	掘立柱建物	墓	
弥生時代後期	1群 V-1群 V-2群 V-3群 猫橋式		1期	集落の出現 外環濠の掘削	SI802・SI821 SI0603 SI03S03 SI03S05 SI0602 SI728 SI03S06 SI03N03	掘立柱建物群？	方形周溝墓	
				2-1群 2-2群 法仏式			2期	SX1005 SX1006 SX1004 SZ743 (大型方形周溝墓) SZ822
				3群 月影式			3期	環濠が上層まで埋没 →一部再掘削？ 内環濠掘削？
	早期(弥生時代終末)	4群 白江式		4期	大型竪穴建物(SI1) 竪穴住居(SI465)			
		5群 6群		5期 6期	高地性集落の廃絶、平地での集落の出現			前方後方形周溝墓(SX03S14)？
	古墳時代前期	7群 古府クルビ式 8群 9群 高島式 10群		1期	7期			
2期				8期				
3期				9期				
4期				10期				

※赤字は平成29年以降の調査で見つかった遺構

↓古津八幡山古墳(古墳中期)

古津八幡山遺跡出土土器の系統別イメージ



東北系土器

北陸系土器



■六地山遺跡 東北系(左)、北陸系(右)土器
『新潟市史』通史編1より転載(一部改変)

古津八幡山遺跡
出土土器

地元系土器
(折衷土器)

独自の様式を生み出す人口・生産力等の保持

土器の特徴

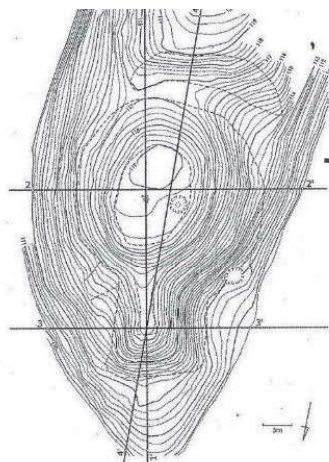
東北系	天王山式	縄文とヘラで描いた文様
北陸系	楕円式・法仏式	薄板で土器の表面をなでる(ハケ目)
地元系	八幡山式	東北的な器形に北陸的なハケ目による整形手法
其他外来系	長野系(箱清水式)	櫛描文 赤い土器

©新潟市文化財センター

土器にみる北陸系・東北系・地元系 さまざまな地域の結節点

越後平野における弥生/古墳移行期

越後平野の古墳は、日本海沿岸域において、阿賀北を含めて前期のみならず中期まで継続する最北の地域



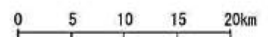
角田浜妙光寺山古墳

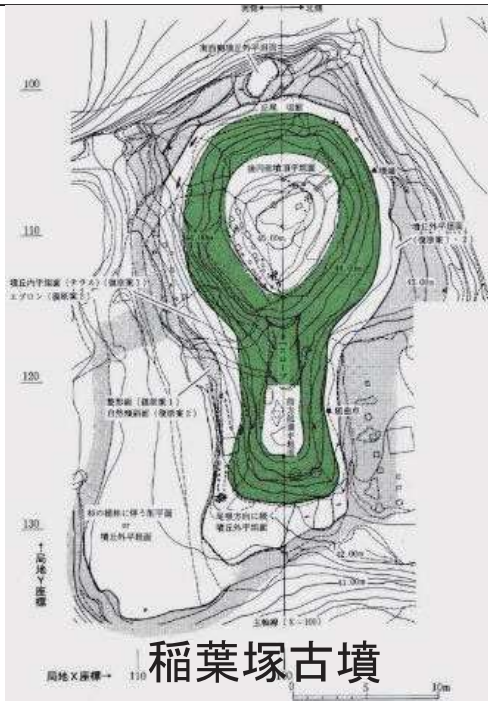
©川上・橋本



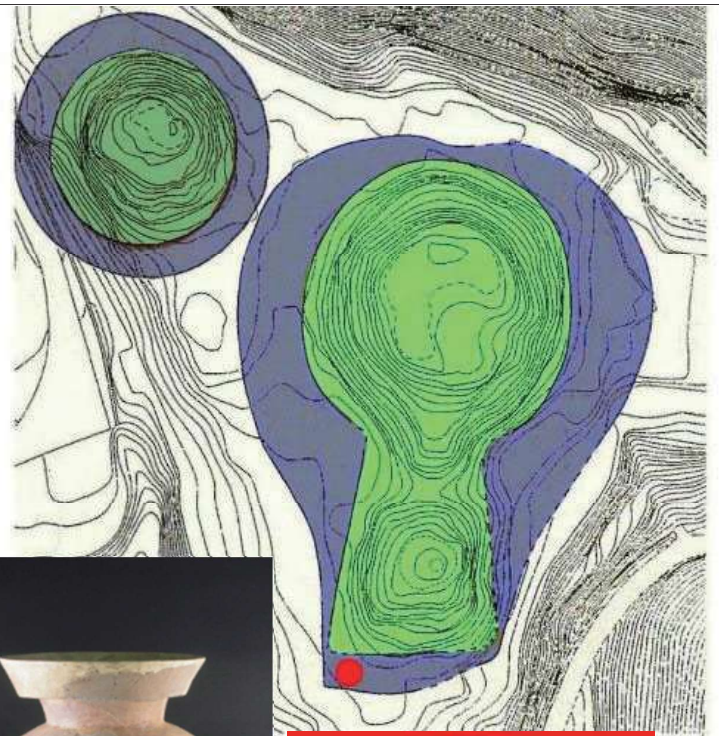
©新潟市

弥生時代後期の高地性集落と前中期古墳





稲葉塚古墳



時期：稲葉塚⇒山谷⇒菖蒲塚

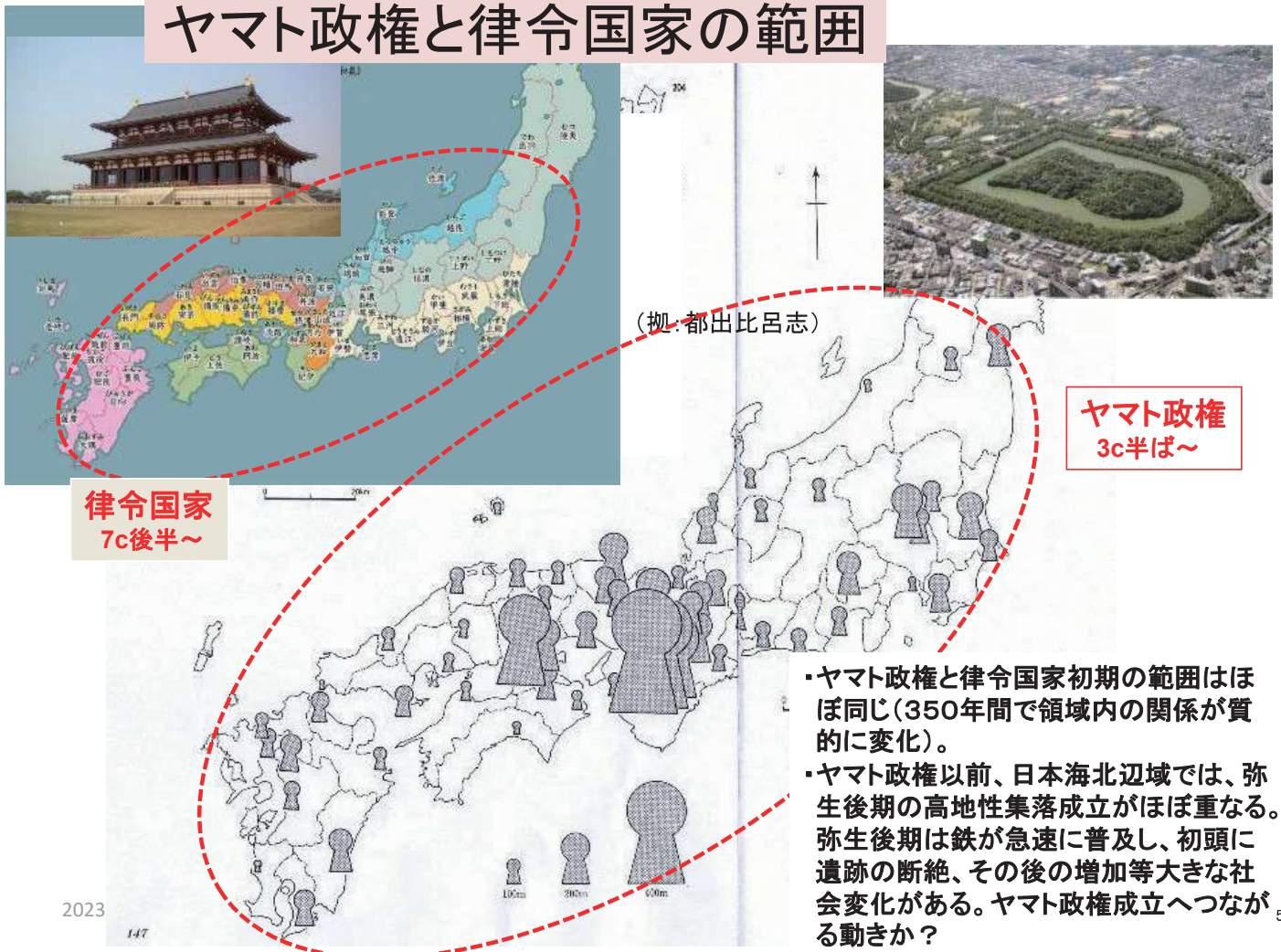


菖蒲塚古墳と出土遺物



©新潟市

ヤマト政権と律令国家の範囲



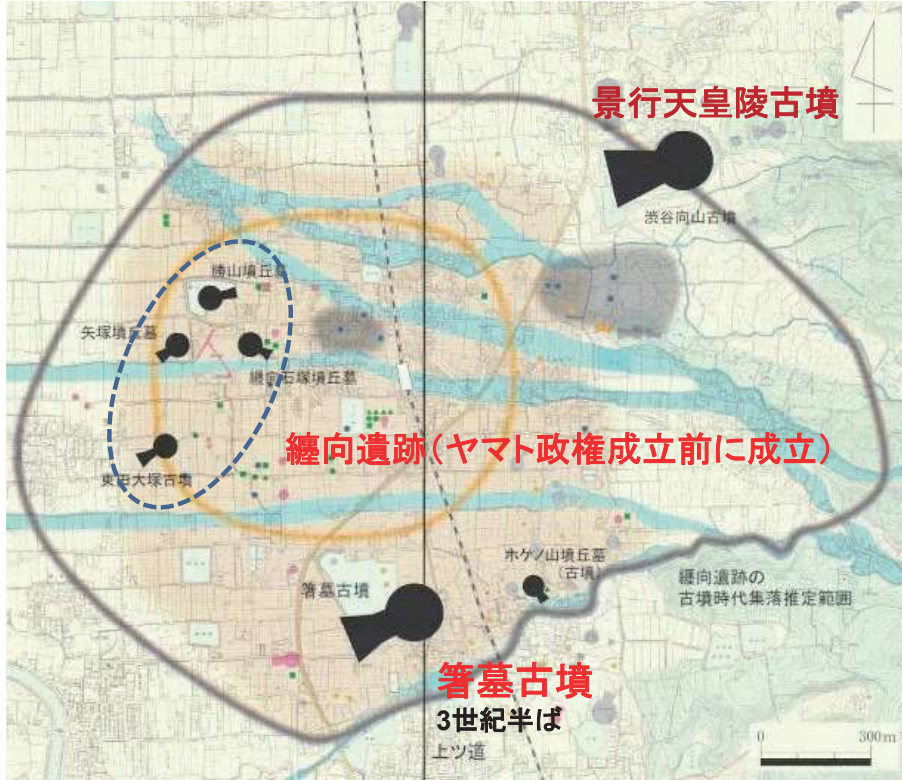
律令国家
7c後半〜

ヤマト政権
3c半ば〜

- ・ヤマト政権と律令国家初期の範囲はほぼ同じ(350年間で領域内の関係が質的に変化)。
- ・ヤマト政権以前、日本海北辺域では、弥生後期の高地性集落成立がほぼ重なる。弥生後期は鉄が急速に普及し、初頭に遺跡の断絶、その後の増加等大きな社会変化がある。ヤマト政権成立へつながる動きか？

ヤマト政権成立の地、大和盆地東南部

纏向遺跡・箸墓古墳/オオヤマト古墳群



箸墓古墳



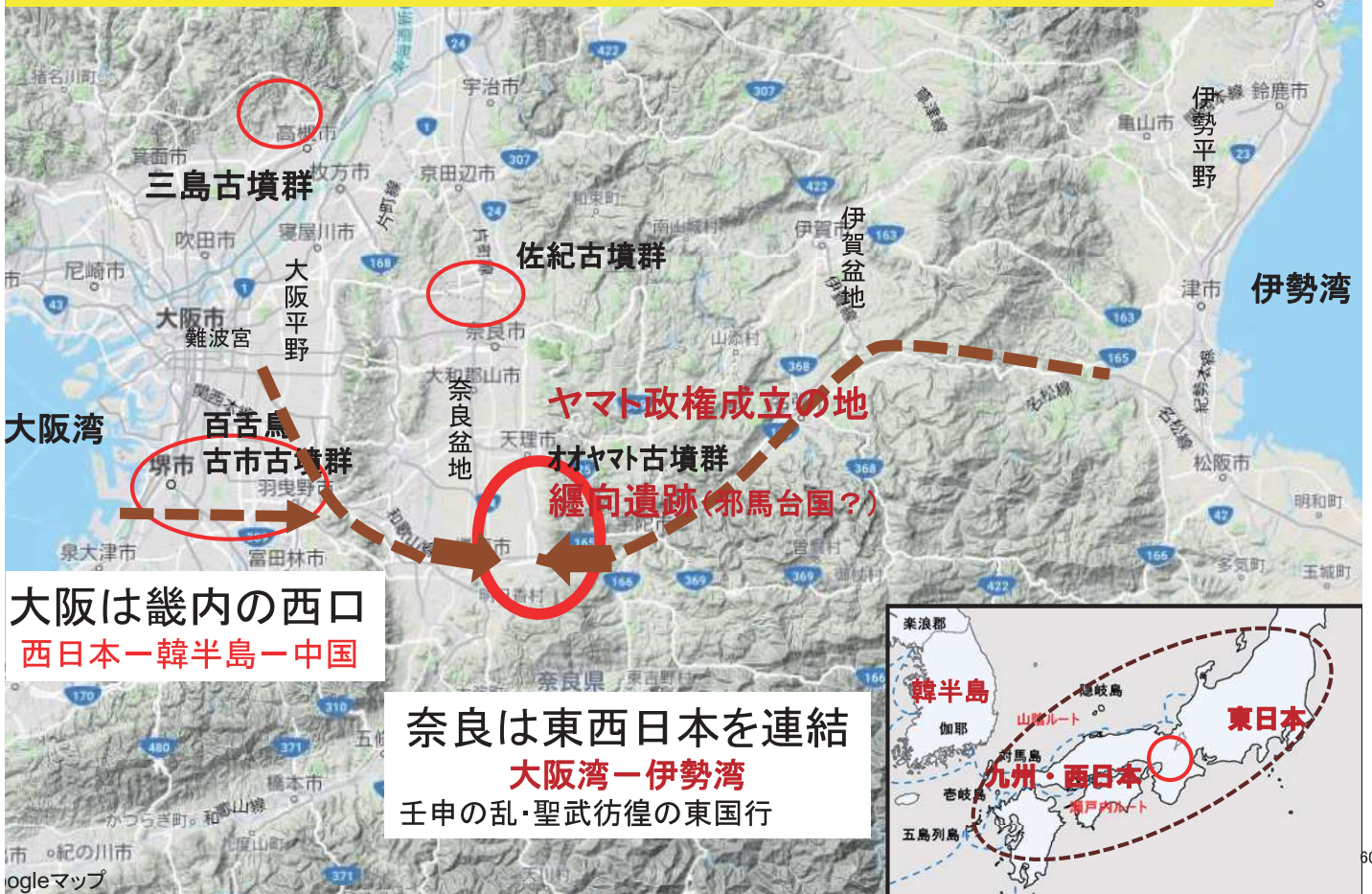
歴博模型

全長280m、後円部径160m

2023/2/9

(拠: 桜井市埋蔵文化財センター)ター

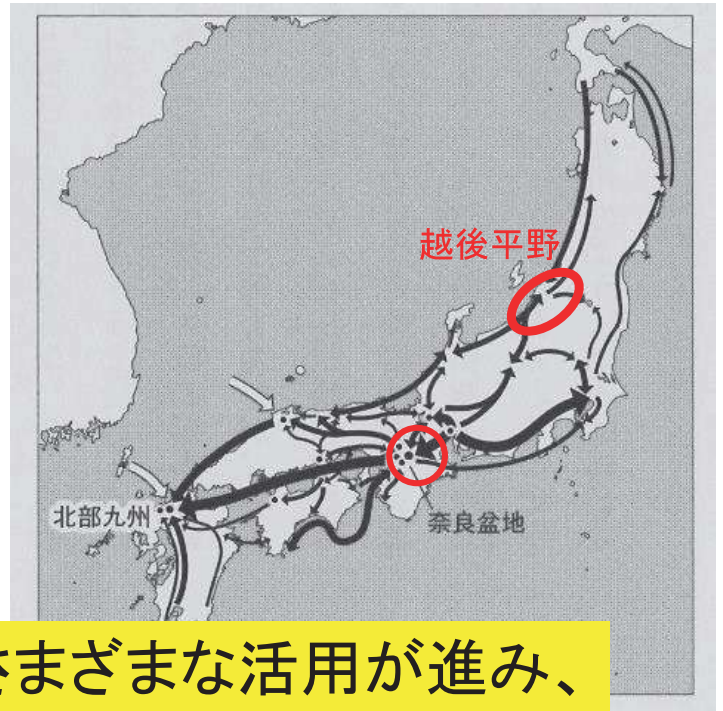
ヤマト政権誕生の地はなぜここなのか？



3世紀前半(庄内式期)の人の動き

活発な土器・ヒトの移動

- 「庄内式」の時期は、全国的に各地の土器が活発に移動する(人びとの移動・交流が広域に活発化)。
- 新潟を含む北陸東部の土器は、高地性集落の終焉とともに、長野や群馬、福島・山形などに及ぶ。
- 新潟は東日本においては、北近畿・北陸、東海・中部高地、会津、北日本などとの複合的な結節点となる。



今後、さらに遺跡のさまざまな活用が進み、多くの市民に親しまれることを期待します！